イスラエルの人々⑦

□イスラエルの人々の信仰の手本（主の道を求める＝生活ルールを求める→再契約）

さて、モーセは主に言った。「・・・(中略)・・・しかも、あなたご自身が、『わたしは、あなたを名指して選び出した。あなたは特にわたしの心になんかっている』と言われました。今、もし私がみこころになんかっているのですしたら、どうかあなたの道を教えてください。そうすれば、私があなただけを知ることができ、みこころになんかようになれます。この国民があなただけの民であることを心に留めてください。」(出33:12~13)

□これまでの振り返り

1. **アブラハム契約**・・・神は、全人類の中から一人の人、アブラハムを召し出し、彼に3つの約束を与えた。**土地の約束、子孫の約束、祝福の約束**である。神はその約束を確かなものとして、アブラハムと契約を結ばれた。
 - (1) 土地の約束・・・約束の地をアブラハムと彼の子孫とに与える。ただし、アブラハムはその約束が成就する前に死ぬ。子孫は他国で400年間苦しんでから戻って来る。→【神の約束が必ず成るとするなら、自分は一度死んで、よみがえり、復活の体で約束の地に立つことになる】
 - (2) 子孫の約束・・・アブラハムは年老いて、妻は不妊の女であった。しかし、神は、アブラハムの子孫が夜空の星のように、砂浜の砂のように多くなる。→【自分も妻も死んだも同然の体。しかし、神には死者をも生かす力がある】
 - (3) 土地の約束と子孫の約束を通して、アブラハムは【**復活信仰**】に導かれた。
 - (4) 祝福の約束・・・二つある。
 - ① アブラハムと彼の子孫を祝福する者は、神によって祝福される。逆に、アブラハムと彼の子孫をのろう者は、神によって呪われる。
 - ② アブラハムの一人の子孫（メシア、キリスト）によって全人類に神の祝福がおよぶ。その祝福の中核は「復活」である。
 - (5) 三つの約束を受け取るためにアブラハムの側に何の義務もない。信じて受け取るだけ。そしてアブラハムが信じた瞬間、神はアブラハムを義人であると認めた。神の目から見て義人であると認められることを、聖書は「救い」という。
 - (6) 救われると、人はどうなるか。第一に霊的復活、第二に体の復活である。
 - ① 霊的復活・・・人が信じた瞬間、神はその人の内側に新しい性質を与えてくださる。その新しい性質により、信者は神を愛し、神のみこころを知りたい、それに従いたいと願うようになる。それが、霊的復活である。
 - ② 体の復活・・・霊的に復活した信者は、死んでも体の復活を受けて、再びこの地上に立つ日が来る。アブラハム、イサク、そしてヤコブはじめイスラエル人であれば、彼らが立つ地域は「約束の地」である。

2. アブラハム契約の継承

- (1) アブラハム契約は、アブラハムから、子のイサク、孫のヤコブへと継承された。
- (2) 神はヤコブに「イスラエル」という名を与えた。ヤコブ＝イスラエルには12人の息子たちがいたが、飢饉を避けてエジプトに寄留するうちに、エジプト王に仕える奴隷の民となってしまった。しかし、神がイスラエルの人々を守り育て、増えさせたので、12の部族から成る一つの民族としての規模にまでなった。
- (3) エジプトで奴隷となってから400年、アブラハムに語られていた預言のとおり、神はアブラハム契約に基づき、モーセを遣わして人々をエジプトから救出し、約束の地へと旅立たせた。

3. イスラエルの人々① 紅海を渡る・・・イスラエルの人々は、神を信頼する信仰によって、右と左に水の壁を見ながら、紅海を渡った。4. イスラエルの人々② 律法授与の準備・・・シンの荒野、エジプトを出てから、ちょうど1か月。手持ちの食糧が尽きて、民はモーセに不平を言った。

- (1) その日の夕方、うずらが飛んで来て宿営をおおった。
- (2) 朝になると、宿営の周り一面に露が降りた。その一面の露が消えると、地面の上には薄く細かいものがあつた。民は、それを「マナ」と名づけた。
- (3) 主は、六日間マナを降らせ、六日目には二日分のマナを与えて七日目を休ませる、という生活ルールを、イスラエルの民に体験させた。これは、安息日の規定をもつ律法を授与するための準備でもあつた。

5. イスラエルの人々③ 水の供給と襲撃者との戦い

- (1) レフィディム、そこには民の飲み水がなかつた。民はモーセと争い、「われわれに飲む水を与えよ」と言った。主はモーセに言われた。「民の前を通り、イスラエルの長老たちを何人か連れて、あなたがナイル川を打つたあの杖を手に取り、そして行け。さあ、わたしはそこ、ホレブの岩の上で、あなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。岩から水が出て、民はそれを飲む。」モーセはその通りにした。このホレブの岩は、第二位格の神、受肉前のキリストであつた。以降、この岩が民についてきて、荒野で宿営する民に飲み水を供給。
- (2) アマレク人がイスラエルの民を襲撃した。襲撃者との戦いを通して主は3つのことをイスラエルに教えた。①主はイスラエルと共におられる、②戦いは人の力によらず、神の助けによる、③モーセは神が選んだ指導者である

6. イスラエルの人々④ 律法授与（シナイ契約、モーセの律法）

- (1) レフィディムを旅立って、第三の月の第一日にシナイの荒野に入った。

- (2) 三日目に主は、シナイ山に降りて来られて主の栄光を民に見せ、民は神への正しい恐れを示した。そして、民に直接、安息日の規定を含む十戒を聞かせ、さらにモーセを通して十戒以外のもろもろの律法の定めを聞かせた。
- (3) 主は、モーセにそれらを書かせ、翌朝、あらためてそれを民の前で読ませ、血の契約を締結した。血の契約とは、破ったら死ぬという堅い誓いである。
- (4) そして、主はシナイ山の中腹に長老 70 人を招いて、契約の食事までして下さった。
- (5) 注意！ モーセの律法を守ることで霊的復活をするのではない。アブラハム契約を与えてくださった真の神を信じることによって霊的復活をする。モーセの律法は、エジプトの奴隷から救出されたイスラエル民族が、神の民であり自由の民ある、その立場にふさわしく歩むための生活ルールである。神の民にふさわしく→偶像崇拜や占いはしない。自由の民にふさわしく→七日目は労働をしない

7. イスラエルの人々⑤ モーセ 40 日間山に、ふもとでは金の子牛事件

- (1) 契約の食事の後、モーセだけシナイ山の中腹から上に登って行った。
- (2) 40 日間山にいて、主から、①幕屋の製作について詳しい指示、②安息日の規定の目的と罰則についての命令、③十戒を記した石の板 2 枚 を授かった。
- (3) その間、ふもとでは金の子牛事件を起きていた。そのことをモーセは山の上で主から聞き、主がイスラエルを滅ぼし、あらためてモーセから新しい民を起こすと言われたことに対し、アブラハム契約の約束に基づいてとりなしをした。

8. イスラエルの人々⑥ 40 日間のとりなし

- (1) モーセは下山し、山のふもとで石の板を砕いた。これはシナイ契約が破棄されたことを意味する。モーセは宿営に入らず、金の子牛像を処分し、アロンを問いただし、そしてモーセの呼びかけに応じたレビ族により宿営内を粛清した。
- (2) 翌日、モーセはシナイ山に登り (5 回目)、民のためにとりなした。主はモーセに、次のように言われた。
 - ① あなたは、民とともに約束の地に行きなさい
 - ② 「わたしの使い (主の使い)」を遣わし、いっしょに行かせる
 - ③ ただし、わたし自身はイスラエルのただ中であっては同行しない。なぜなら、イスラエルは「うなじを固くする民」なので、わたしが途中でイスラエルを滅ぼしてしまわないようにするためだ。
 - ④ 今、飾り物を身から取り外しなさい。そうすれば、あなたがたのために何をすべきかを考えよう。
- (3) 民はこの悪い知らせを聞いて嘆き悲しみ、一人も飾り物を身に着ける者はいな

かった。そして、その日から40日間、モーセのとりなしが続いた。

- (4) モーセは会見の天幕を宿営の外に設け、毎日その天幕に通った。モーセが会見の天幕に向かうとき、イスラエルの民はモーセを見送り、モーセが天幕に入り雲の柱が天幕の入り口に立つのを見ると、民はみな立ち上がって、それぞれ自分の天幕の入り口で伏し拝んだ。
- (5) 主は、人が自分の友に語るように、顔と顔を合わせてモーセと語られた。

□イスラエルの人々の信仰⑦ モーセ再び40日間、山に。主が再契約してくださる

1. 主に対するモーセの四つの願い (出 33：12～23)

- (1) 12節 a ご覧ください。あなたは私に「この民を連れ上れ」と言われます。しかし、だれを私と一緒に遣わすかを知らせてくださいません。 → 「わたしの使い(主の使い)」とは、だれですか。教えてください
- (2) 12b～13節 しかも、あなたご自身が、「わたしは、あなたを名指して選び出した。あなたは特にわたしの心になっている」と言われました。今、もし私がみこころになっ
- ていたのでしたら、どうかあなたの道を教えてください。そうすれば、私がある
- あなたを知ることができ、みこころにかなうようになれます。この国民があなたの民であることを心に留めてください。
- 波線部については、きょうの課題、P.5へ。
- (3) 16節 私とあなたの民がみこころになっ
- ていることは、いったい何によって知られるのでしょうか。それは、あなたが私たちと一緒に行き、私とあなたの民が地上のすべての民と異なり、特別に扱われることによるのではないのでしょうか。
- (4) 18節 どうか、あなたの栄光を私に見せてください。

2. 主からモーセへの回答 (出 33：14～34：1)

- (1) 「主の使い」とは、だれですか。教えてください
出 33：14 主は言われた。「わたしの臨在(顔)がともに行き、あなたを休ませる。」
- (2) 主の道を教えてください → 道とは、生活ルール。神の民としてどのように生活すべきか、神のみこころを教えてください、という願い。これに対して、神は、シナイ契約を再び与えると答えてくださった。
出 34：1 主はモーセに言われた「前のものと同じような二枚の石の板を切り取れ。わたしはその石の板の上に、あなたが砕いたこの前の石の板にあった、あのことばを書き記す。
- (3) 主が私たちと一緒に行ってください
出 33：17 主はモーセに言われた。「あなたの言ったそのことも、わたしはしよ

う。あなたはわたしの心にかない、あなたを名指して選び出したのだから。」

(4) 主の栄光を私モーセに見せてください → 主の回答は3点 (出 33：19～23)

- ① 19節 主は言われた。「**わたし自身**、わたしのあらゆる良きものを**あなたの前に通らせ**、主の名でああなたの前で宣言する。わたしは恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」
- ② 20節 また言われた。「**あなたはわたしの顔を見ることはできない**。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」
- ③ 21～23節 また主は言われた。「見よ、わたしの傍らに一つの場所がある。あなたは岩の上に立て。わたしの栄光が**通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れる。わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておく**。わたしが手をのけると、あなたはわたしのうしろを見るが、わたしの顔は決して見られない。」

3. 再び山へ (6回目)、ついに再契約 (出 34：2～35)

(1) 主の命令 (出 34：2～3)

朝までに準備をし、朝シナイ山に登って、その山の頂でわたしの前に立て。だれも、あなたと一緒に登ってはならない。

- 準備とは、石の板二枚を切り取り、持参すること

(2) 山に登ると、主がモーセの前を通り過ぎた (出 34：4～7)

主は雲の中であって降りて来られ、彼とともにそこに立って、主の名を宣言された。主は彼の前を通り過ぎるとき、こう宣言された。「主、主は、あわれみ深く、情け深い神。怒るのに遅く、恵みとまことに富み、恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。」

(3) モーセは主にいっしょに行くことを求め、主は民と再契約 (出 34：8～27)

モーセは急いで地にひざまずき、ひれ伏した。彼は言った。「ああ、主よ。もし私がみこころにかなっているのですしたら、**どうか主が私たちのただ中にいて、進んでくださいますように**。確かに、この民はうなじを固くする民ですが、どうか私たちの咎と罪を赦し、私たちをご自分の所有としてくださいますように。」

主は言われた。「**今ここで、わたしは契約を結ぼう**。……(中略)……これらのことばを書き記せ。わたしは、これらのことばによって、あなたと、そしてイスラエルと契約を結んだからである。」

(4) モーセは40日間、山にいた。そして石の板に十戒を書き記した (出 34：28)

(5) 下山し、アロンと族長たちに主のことばを命じた (出 34：29～32)

□ 1.(2) 「わたしの心にかなっている」「みこころにかなうようになれます」とは？